

定例教育委員会会議録

(令和7年9月8日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】（要点筆記）

日 時 令和7年9月8日（月）9時40分～

場 所 岡谷美術考古館 3階多目的スペース

署名委員 太田教育長職務代理者、轟教育委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 岡谷市教職員研修会について

「わたしたちのウェルビーイングを見つけ高める」【資料No. 1】

（学びの創生・連携支援室）

2. 生涯学習館及び3公民館の

避難所施設・運営マニュアル（案）について【資料No. 2】

（生涯学習課）

3. 岡谷市史編さん事業の基本方針（案）について【資料No. 3】

（生涯学習課）

4. 岡谷市史編さん業務委託事業者選定委員会の委員選任について【資料No. 4】

（非公開）

（生涯学習課）

○ 報 告

1. 令和7年度おかや小学生夏休みわくわくサマースクールについて【資料No. 5】

（教育総務課）

2. 市史編さん室 視察について【資料No. 6】

（生涯学習課）

3. 国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会の立上げについて【資料No. 7】

（国スポ・全障スポ推進室）

○ そ の 他

・行事等について（各課）

・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、

教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、

教育総務課主幹指導主事 村松 晋

生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、

指導主事（ウェルビーイング実践校）井出 誠一、

教育総務課 教育企画主幹 西山 塁、学校教育主幹 新村 尚志、

生涯学習課 市史編さん室主幹 秋山 仁志、

国スポ・全障スポ推進室 国スポ・全障スポ推進主幹 井岡 雅彦、

市史編さん室 専門委員 櫻井 洋 長地公民館 館長 大下 彰一

<会議録>

○開 会

宮坂教育長

9月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、太田教育長職務代理者、轟教育委員にお願いします。

○教育長報告

宮坂教育長

(1) 子どもたちの姿から

① 二学期スタート

8月21日に2学期が始まり、夏休み中は児童生徒の大きな事故や怪我の報告もなく安堵している。わくわくサマースクール、図書館キッズ、サマーチャレンジ、Nコン等の活動を通して、子どもたちはそれぞれの場面で力を発揮していた。

② 神明小タイムカプセル

8月13日には、神明小学校でタイムカプセル開封式が行われた。岡谷小学校の閉校に伴う三校統合から10年を経ての節目の行事であり、当日は約300名の元児童と関係者ら約100名が参加し、中庭を埋め尽くす盛況ぶりであった。岡谷田中小学校では、10月10日に統合後に作った校歌の作詞・作曲者による講演会を予定しており、こちらも節目の行事となる。

③ 広島平和体験研修解団式

8月19日に解団式が行われ、子どもたちの言葉には大きな感動があった。「平和へのバトンを渡された」「この空から感じたことを一生忘れない」「私は平和を願う一員だから」など、自身の体験から生まれた言葉に重みがあり、改めて現地体験の重要性を認識した。今年は語り部3名からの講話や、広島市主催の全国平和学習の集いへの参加もあり、岡谷市の子どもたちはグループディスカッションで活躍した。命・平和・人権の学習の継続が重要であると実感した。

(2) 岡谷の教育を考える懇談会

8月19日に区長と教育委員会との懇談会を開催した。教育委員も参加し、まちじゅう学園化構想や地域連携について意見交換を行い、有意義な時間となった。

(3) 生涯学習課から

7月31日～8月1日に予定していた東伊豆町との交流事業は、7月30日の地震による津波発生と避難指示のため中止となった。参加予定の小学生約30名およびリーダーズの準備への思いを受け、代替事業を実施することとした。代替事業は9月20、21日に塩嶺野外活動センターおよび茅野市蓼科のフォレストアドベンチャーで行う。1日目は野外炊飯・キャンプファイヤー・花火等、2日目はアスレチック体験を予定しており、子どもたちにとって心に残る体験となることを期待している。詳細は次回の教育委員会で報告予定である。

(4) スポーツ振興課から

① 市民総合体育館（スワンドーム）の改修

現在、スワンドームでは外足場が設置され、改修工事が順調に進行して

宮坂教育長 いる。10月からは内部アリーナの改修に着手し、来年2月まで全体の利用が制限される予定であるが、利用者の安全を最優先に進めていく。

② 国民スポーツ大会出場者への壮行会

9月28日から滋賀県で開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・全障スポ2025」に向け、市内からは7競技・30名の選手が出場予定である。9月17日18時30分より市役所にて壮行会を開催し、選手・監督・コーチを招き、全国での活躍を祈念する。

○議 題

1. 岡谷市教職員研修会について「わたしたちのウェルビーイングを 見つけ高める」

＜岡谷市教職員研修会について、事務局より No. 1 に基づき説明＞

太田教育長職務代理者 ウェルビーイングは今後の教育において重要な視点であり、学校環境の整備は大切である。ただし、大人が整えた環境に子どもを適応させるだけでなく、子ども自身が自らウェルビーイングを築く力を育むことも、同様に重要である。

現代社会は不確実で理不尽な場面も多く、整った環境では対応しきれない現実がある。そうした中でも自ら心の安定を保ち、生き抜く力が求められる。そのためには、カリキュラム外の予測不能な体験や、地域との関わりを通じた学びの中で、困難に向き合う機会を意図的に設けることが必要であると感じた。

林教育委員 ウェルビーイングの内容は一度に理解するのが難しく、段階的に進めていくことが必要であると感じている。教員が学び、生徒にも伝えていくという教員と生徒の両輪での学びが重要である。低学年には難しいかもしれないが、高学年や中学生であれば、少しずつ具体的に伝えることで理解できる内容であると思う。そうした段階的な学びの計画があるのかを確認したい。

事務局（村松） 現在、井出先生が各学校を巡回し、「トコトン」の取り組みについて児童・生徒に説明する機会を設けている。その中で、ウェルビーイングの考え方についても触れ、説明を行っている。

事務局（井出） 現在、市内の各学校を訪問し、「トコトン」やウェルビーイングの考え方について児童・生徒に直接説明する機会をいただいている。実施は始まったばかりで、現在までに3校で行い、今後10月までに全校での実施を予定している。

説明では、ウェルビーイングを「幸せの状態」と捉え、「ハッピー」は一時的な感情（テストの点が良かった、歌が上手く歌えて楽しいなど）であり、「ウェルビーイング」は継続的で安定した幸福状態であると伝えている。例として、「ハッピー」は打ち上げ花火のような瞬間の幸せ、「ウェルビーイング」は暖炉のように持続的に温かい幸せと説明しており、子どもたちと共に考えを深めていきたいと考えている。

林教育委員 ウェルビーイングという言葉は内容が多様であり、理解が難しい面もあるが、対象学年の生徒に対して段階的に伝えていくことは意義深い。今後も、教員と生徒が共に理解を深めながら取り組める環境づくりを進めてほしい。

藤森教育委員 資料を拝見し、VUCA やウェルビーイングといった概念が近年の教育委員会でも繰り返し取り上げられており、社会情勢を踏まえた今後の教育の方向性が非常に分かりやすくまとめられていたと感じた。講演を聞いた先生方も内容に深く納得されたのではないかと推察する。

このような考え方は学校教育にとどまらず、社会に出てからの生き方や企

業経営における心理的安全性の確保などにも通じる視点であり、個人的にも関心を持った。特に、子どもたちが将来、自らの力で生き抜くために必要な力を育むことが重要であり、その点については他の委員の意見にも共感した。

今回の研修会は講演を聞くだけの場であったのか、それとも教員間でのグループディスカッションや意見交換の時間が設けられていたのかを確認したい。もし意見交換が行われていたのであれば、教員からどのような意見が出たのかについても知りたい。

事務局（村松） 講演後、小学校では学年ごとに、中学校では教科ごとに分かれ、教員によるグループディスカッションが行われた。その中で特に注目されたのは、木村先生の講演にあった「日本の小中学生は失敗を恐れる傾向が強い」「自己決定の機会が OECD 諸国の中で少ない」という点である。

教員からは、今後は子どもたちが自ら判断・決定できる機会を意識的に増やしていく必要があるとの意見が多く出された。

藤森教育委員 講演では、教師という職業は AI に代替されにくい職種であるとの話があり、教員の力の重要性を改めて感じた。このような研修の機会を岡谷市として設けたことは非常に有意義であったと考えている。今後も、今回の研修や「トコトン」の取組をきっかけに、より良い教育実践が進むことを期待している。

太田教育長職務代理者 OECD の調査で、日本の子どもたちは自己決定の機会が少なく、失敗を恐れる傾向が強いにもかかわらず、学校生活への満足度が高いという結果が示されている。この一見矛盾するような状態を、どのように捉えればよいのか疑問を持っており、先生方はどのように理解しているのかを伺いたい。

事務局（村松） 個人的な考えとしては、やることが決まってい指示通りに動く方が楽で安心感があるため、そのような状況にある子どもたちの満足度が高いのではないかと感じている。

例えば、校則を自分たちで変えるにはエネルギーが必要であり、それに比べて指示に従う中で安心して過ごせることが満足感につながっている可能性があると考えている。

宮坂教育長 全国学力調査の質問項目を見ると、「先生に良いところを認められているか」「友達と協力することが楽しいか」「将来の夢を持っているか」といった質問に対して、生徒の肯定的な回答が比較的多い傾向にある。そのため、村松先生の指摘する課題がある一方で、自己有用感を高めてくれるような人的環境が存在していることも背景にあると考えられ、これは太田教育長職務代理者の意見にもつながる部分がある。

太田教育長職務代理者 学校生活の満足度が高い理由として、「楽である」といった安心感も一因ではあるが、それがすべてではない。近年では、より前向きで内面的な充実感による満足度も高まっている可能性があると感じた。

小平教育委員 偏差値による画一的な進路選択が一般化しつつある現代において、子ども一人ひとりが自分の能力や価値を見出し、社会に貢献する実感を持てることが、真のウェルビーイングにつながるのではないかと感じた。岡谷のような地域には中小企業や起業文化が根付き、自己決定や挑戦を重ねる中で得られる豊かさや学びの機会がある。これは子どもたちが人生を自ら選び取っていくためのヒントとなり得る。

また、地方には都市にはない市民参加意識や地域連携の可能性があり、教育と結びつけて活かせる余地が大きいと再認識した。教師が自らのウェルビーイングを高めることが、子どもたちの幸せにも直結する重要な要素である

と感じた。

「フロー状態」について、具体的に教師としてどのように子どもたちをその状態に導いていくことができるかについて、実践的な考えを伺いたい。

事務局（村松） 総合的な学習の時間などで、子どもたちが自らやりたいことを発し、主体的に活動するときこそ、フロー状態が生まれる可能性があると感じている。資料1の①（10ページ）にその点が詳述されているため、参考にしてほしい。

子どもの興味と教師の支援が適切にかみ合った時に、フロー状態が実現すると考えられる。

小平教育委員 適切な目標設定はフロー状態を生む上で重要であり、簡単すぎても難しすぎても満足度は下がると感じた。また、岡谷市の学校訪問での先生方の言葉からは、子どもたちへの温かいまなざしが伝わってくる。

一方で、社会に出た時にどう生き抜くかという視点も必要であり、ただ褒めるだけでは不十分であることも認識している。褒め方には技術やタイミングが求められ、教師の役割は極めて高度で大切なものだと感じている。今後の取り組みに期待したい。

轟教育委員 村松先生の説明は分かりやすかったが、テーマ自体は非常に難解であった。ウェルビーイングを高める具体的な方法はすぐには見えず、まずは背景や現状の理解が重要である。特に日本の受験制度や失敗を恐れる文化が即時の改善を難しくしている。ウェルビーイングという言葉は新しいが、求められている状態自体は昔から存在しており、井出先生のように繰り返し啓蒙活動を続けることが重要だと感じた。

宮坂教育長 木村先生からは、変化の激しい現代社会が教育に及ぼす影響と、子どもたちおよび教師の心身の健康と幸福（ウェルビーイング）の重要性について教えられた。日本の子どもたちが失敗を恐れ自己決定の機会が少ない現状に対し、マズローの欲求理論や社会情勢、情動的学習など具体的な対策が示された。教師自身も幸福を追求しながら共に教育を創ることの重要性が強調された。教育委員会としても、これらの取り組みを通じ岡谷の子どもたちと教師のウェルビーイング支援に努める所存である。

2. 生涯学習館及び3公民館の避難所施設・運営マニュアル（案）について

＜生涯学習館及び3公民館の避難所施設・運営マニュアル（案）について、事務局より

No. 2に基づき説明＞

小平教育委員 最近、大規模な災害による避難所開設はあまり見られないという印象であるが、それは間違いなのか確認したい。

事務局（清水） 令和3年8月の豪雨災害時に、3つの公民館が避難所として運営された。カルチャーセンターは当時まだ避難所に指定されていなかった。特に川岸の公民館は長期間避難所として利用された。

小平教育委員 公民館は規模が小さく老朽化もあるが、カルチャーセンターは設備が大きく丈夫であり、いざという時の対応力が高いと考えられる。

藤森教育委員 マニュアルは必要だが、その運用の対象は職員であるという理解でよいかを確認したい。

事務局（清水） 避難所の運営は施設職員が担うが、災害対応で職員が不在となる場合もあるため、基本的には避難者自身が役割分担して自主的に運営する方針である。

そのため、避難者にも分かりやすいマニュアルを作成している。

事務局（三澤） 避難所運営は、避難者による組織体制をもとに進める想定であり、マニュアル7ページにその体制や役割分担が記載されている。今後も意見を受けながら随時修正を行っていく予定である。

宮坂教育長 令和3年の避難所開設時の反省点や、それを踏まえて今回改善を考えている点があるかどうか聞きたい。

事務局（大下） 令和3年の避難所開設時の反省点として、感染症対策の難しさ、車中避難者の把握不足、高齢者への対応の遅れなどが挙げられた。これらの課題を踏まえ、今後のマニュアルに反映し改善を図っている。

林教育委員 マニュアルに基づく訓練の実施予定の有無と、車で避難してくる人への対応、特にカルチャーセンター周辺の狭い道路に関して、車の誘導などを含めた対応がマニュアルに盛り込まれるかを確認したい。

事務局（清水） イルフプラザ3階の避難所マニュアル作成にあたり、管理組合と事前に協議を行っており、今後は車の誘導や営業中の他フロアとの関係、避難者の動線・立ち入り制限などについても関係者と調整し、必要に応じてマニュアルに随時反映していく方針である。

宮坂教育長 生涯学習館及び3公民館の避難所施設・運営マニュアル（案）について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

各教育委員 — 異議なし —

宮坂教育長 近年の自然災害の頻発を踏まえ、市民の安全確保には平時からの備えが重要である。カルチャーセンターや公民館は避難所として迅速かつ適正な運営が求められる施設であり、今回のマニュアルは施設特性や地域事情を踏まえ、開設から運営までの手順と役割を明確にしたものである。教育委員会としても、災害時に所管施設が地域の拠点として機能できるよう、関係機関と連携し体制強化に努めていく。

3. 岡谷市史編さん事業の基本方針（案）について

＜岡谷市史編さん事業の基本方針（案）について、事務局より No. 3に基づき説明＞

小平教育委員 以前拝見した岡谷市史は非常に分厚く、原始時代からの歴史が網羅されており、一般の人にとっても興味深く、研究者にとっては貴重な資料である。現行の市史発刊後の調査で得られた新たな知見や、神楽の面などの新発見、縄文時代に関する認識の変化なども加わることで、内容がより充実し、刷新された市史の完成が非常に楽しみである。

太田教育長 職務代理者 市史の作成は重要で労力を要する作業だが、実際には研究者や関心のある一部の人以外にはあまり読まれていないのが現状である。自身もこれまで市史を読んだことがなかったが、「市史編さん室だより」のような情報発信は親しみやすく、非常に良い取り組みだと感じている。今後も市民の関心を高めるために、作成プロセスの情報公開を継続してほしい。

宮坂教育長 岡谷市史編さん事業の基本方針（案）について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

各教育委員 — 異議なし —

4. 岡谷市史編さん業務委託事業者選定委員会の委員設置について（非公開）

宮坂教育長 この件について、人事に関わる議題のため非公開とし、後ほど議論したいがよろしいか。

各教育委員 — 異議なし —

○ 報 告

1. 令和7年度おかや小学生夏休みわくわくスクールについて

＜令和7年度おかや小学生夏休みわくわくスクールについて、事務局より

No. 5に基づき説明＞

太田教育長 職務代理者 スキルアップ学習は良い取り組みであるが、小学校別の参加人数に大きなばらつきがある。例えば神明小は1回平均50人以上、小井川小は80人以上である一方、長地小は20人程度である。これは参加必要度の違いや周知不足など様々な要因が考えられ、今後は原因を深く分析し来年度に活かすべきである。

小平教育委員 スキルアップ学習の開催場所は各学校であり、それぞれの学校ごとに実施しているということによいか。

事務局（荻原） 各学校にて実施している。

小平教育委員 スキルアップ学習における先生方の対応人数や時間的負担について教えていただきたい。

事務局（荻原） スキルアップ学習の時間は約2時間であり、先生方の負担というよりも子どもたちのために作る時間となっている。

小平教育委員 スキルアップ学習は約2時間で、先生方も夏休み期間中に子供たちと顔を合わせて学ぶ活動である。先生方の負担にならない範囲で、さらなる工夫を期待する。

2. 市史編さん室 視察について

＜市史編さん室 視察について、事務局より No. 6に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

特になし。

3. 国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会の立上げについて

＜国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会の立上げについて、事務局より No. 7に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

特になし。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

・次回定例教育委員会日程

令和7年10月7日（火）9時30分から岡谷市役所 202 会議室を予定

11 時 45 分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 7 年 10 月 7 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

太田 博久

署 名 委 員

車 美 緒
車

調 製 職 員

白 上 淳